

3年2組 道徳だより

主題名 思いやりの心 内容項目 親切、思いやり
 教材名 「一さつのおくりもの」P.58～P.61

ねらい 相手のことを思いやり、進んで親切にしようとする心情を育てる。

①教材について

主人公のクマタは、絵本「貝がらの おくりもの」が大のお気に入りでした。しかし、クマタはその大好きな本を手放すことになります。山向こうの村で起こった大水害で大変な思いをしているであろう村の子供たちのために、悩みに悩んで大好きな本を送ることに決めたからです。クマタは本を受け取ったササエからの手紙を読んで、自分が大好きな絵本の中のキツネの子になれたような気がして、とても嬉しい気持ちになります。クマタの温かい心や揺れ動く気持ちを感じ取り、「相手を思いやる」というのは、どのようなことなのかを考えさせることのできる教材です。

②授業の様子

- クマタはなぜ、えらぶつもりがなかった「貝がらのおくりもの」をあげることにしたのでしょうか。
 - ・本に傷やよごれがあると、もらった人が悲しむから。
 - ・「貝がらのおくりもの」のキツネの子のように親切になりたかったから。
 - ・大切なものをあげるのはつらいけど、物を多く失った人がつらいから。
 - ・きれいな本をあげると、相手が嬉しい気持ちになると思ったから。
 - ・本当は嫌だけど、相手の苦しい気持ちやさみしい気持ちを考えたから、決心できた。
 - ・災害にあった人のことを考えると、きれいな本じゃないといけないと考えたから。

③振り返り

- どのような人を、「親切な人」というと思いますか。親切な人になるために、どんなことができますか。

・思いやりがある人	→ 落としたものをひろってあげる。 → 電車で席を譲る。
・身近にいて手伝ってくれる人	→ 困っている人に寄り添って、手伝ってあげる。
・自分にできることをしてくれる人	→ 困っている人のためにできることをする。
・心配して声をかけてくれる人	→ 困っている人を助けてあげる。
・人の気持ちを考えられる人	→ 順番をゆずってあげる。
・人のために悩んで、できることをする人	→ 人に優しくする。

④担任より

低学年の時よりも、友達との関わりが深くなってきた3年生。友達関係の中でも、友達に対して優しい声かけをしたり、物が落ちていたら拾ってあげたりするなど優しい行動をとる様子がよく見られます。

今回の授業では、「相手のために、本当はあげたくない本をあげるかどうか考える」というクマタの葛藤を通して、相手の気持ちや考えていることなどを想像したり読み取ったりして、相手に寄り添う行動をとったり、それについて考え抜いたりすることが親切であると気づかせたいと考えました。表面的な優しい行動だけでなく、他者の立場や気持ちをよく考えて行動することが大切であると気づいてほしいと願っています。相手の立場に寄り添うことで、よりよい人間関係を築くことにもつながるのではないかと考えています。